

としょかんだより 第86号

(10・11月合併号)

2014年 11月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

2014年 12月開館予定表						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

	9:00-21:30			13:00-21:30		
	9:00-17:00			休館日		
	9:00-19:00					

発行所

〒648-0280

和歌山県伊都郡

高野町高野山 385

高野山大学図書館閲覧室

TEL : 0736-56-3835

FAX : 0736-56-5590

E-mail

service-lib@koyasan-u.ac.jp

第5回 図書館戸田文化講座 紙漉き体験

11月30日(日)13:00~15:00より戸田文化講座が開催されます。

場所は、高野山会館(高野町中央公民館の横)2階会議室、参加費は500円です。

講師は前回と同じく飯野尚子さん(高野町教育委員会) 今回の講座は**事前申込**ですので高野山大学図書館までお申込みをお願いします。申込締切は**11月28日金曜日17:00**まで。

オススメ図書



図書館員が選んだ図書をベスト10コーナー棚の上段に配架しています。興味持たれた方は借りてみてはいかがでしょうか。

配架中のオススメ図書

書名	請求記号
『京都「地理・地名・地図」の謎』	719/キ/7
『あなたの知らない京都府の歴史』	719/ア/2
『藪内佐斗司流ほとけの履歴書』	653/ヤ/5

お筆・三絃コンサート

11月26日(水)の17:00より図書館閲覧室におきましてミニコンサートを開催します。3名による演奏をどうぞお楽しみください。

演奏者：糺谷有紗先生(本学非常勤講師)
森崎雅好先生(本学助教)
恵良佑美果さん(本学4回生)

事前予約は必要ありませんので、直接会場にお越し下さい
皆様のご参加をまっています

文学逍遙 一西行の庵（2）水茎の岡一

高野山大学教授 図書館長 下西 忠

西行が四国への旅を思い立ったのは、仁安二年（1167）であった。その旅は、仁安三年という説もあるが、いずれにしても、平清盛の重篤を契機として平氏が凋落の一途をたどろうとしていた時期にあたる。まさに歴史がガラガラと音を立てて動き始めようとしていた時期であった。時に西行 50 歳頃であった。旅の目的は、崇徳院への鎮魂と弘法大師の地を巡歴することであった。西行は曼荼羅寺を訪れて次のような和歌を詠んだ。

めぐり逢はんことの契りぞありがたき巖しき山の誓ひ見るにも

大師がここで修行された時、雲に乗ってこられた釈迦如来にめぐりあわれたという、その契りのありがたさと同じく、自分もいま大師行道の跡に巡り逢うことのできた因縁をありがたく思うことだよ、の意。

西行が住んでいた庵は、曼荼羅寺から出釈迦寺に向かう途中を右折し、約 500 メートル行ったところにある。通称水茎の岡と呼ばれている。竹藪のなかに、「西行上人いほりの跡」という石碑のほか、「山ざとにうき世いとはん友」もがなくやしく過しむかしかたらん」という歌碑、小さな五輪塔などがある。以前訪ねたとき小雨がもの悲しげに降っていたのを思い出す。西行がそこで具体的にどのような生活をしていたかは知る由もないが、その雨のなかですこしたらずんで西行を偲んでいた私が懐かしい。



香川県善通寺市 四国 72 香
曼荼羅寺あたりの水茎の岡の西行庵

歌碑の歌は、西行の心情を素直に表白されたものである。この山里でも憂き世を厭い捨てるような友がいたらよいのになあ。悔しく過ぎた昔のことをともに語ることもできたであろうに、の意。後悔された昔とは何を指すのか、曖昧さは残るものの、西行の複雑な心情がなにか印象にのこる歌である。庵での生活の寂しさについて、もう一首紹介したい。

寂しさにたえたる人のまたもあれな庵ならべん冬の山里

庵住まいの寂しさに耐えている人が、私のほかにもいてほしいものだ。そうしたら、庵を並べるとともに住もう、この冬枯れの山里で、の意。西行は、案外人恋しい人であったのであろうか。冬の山里、そして寂しさを詠み込む歌は古来からある。しかし、この西行歌は叙景歌ではなく、一種人間的な弱さをかかえて歩いて行く人間の寂寥感があるように思える。隠遁者の本質は絶対的な孤独にあると思うけれど、基本的に西行は聖俗ともにもっていた歌人という点を考えると、人を求めるといふ西行像はある意味で理解できよう。